

多段テールアルメの実施例

ここで紹介する例は、町道の新設工事において使用されたもので、その断面形状を図1に示す。この道路は地盤より30mほど高い位置に計画されたもので、基礎の支持岩盤上に人工岩盤タイプの基礎フーチングを設け、その上に2段積みのテールアルメを設置したものである。

テールアルメの採用理由はつぎのようなものである。

- ①地盤からの計画面までの高さが高い場合、橋梁との工法比較でテールアルメ壁が経済的で優位となる。
- ②路線内の用土計画上で残土流用箇所としてテールアルメによる高盛土は有用である。テールアルメの構築にあたっては、基礎となる頁岩層の上に8mほど堆積している崩積土を撤去し、その上に基礎フーチングを設置した。上段 T.A のすべりに対しては、上下段のテールアルメの中間の盛土にセメント系改良材を用いて改良し、その対策工とした。

テールアルメおよび上載盛土には、細粒分の含有量が8%前後で透水性のよい細粒分まじりレキを使用し、その現場密度は95%を確保した。また、地下水や湧水などの排水対策としては、図に示すように、地下排水溝を設け壁前面に導いた。

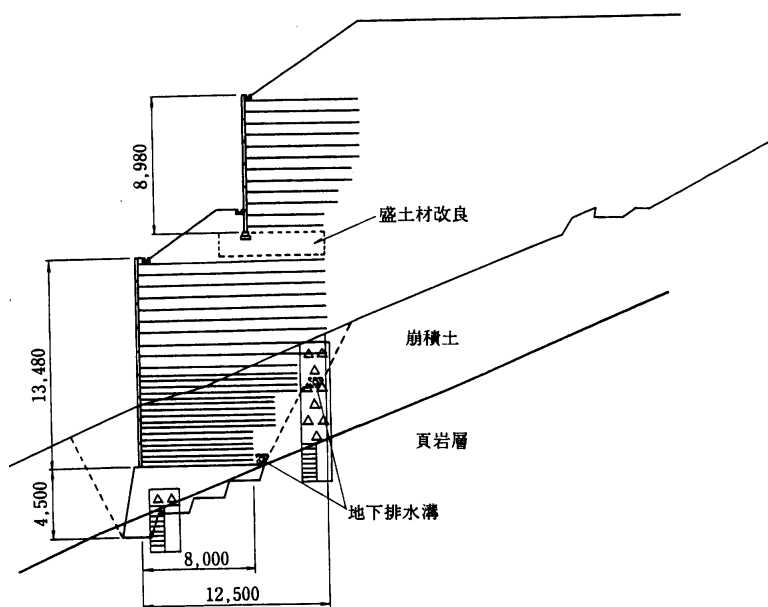


図1 断面図